

組織力の向上について

不登校児童・生徒の状況

現在、定期的に利用している生徒は 7 名おり、それに加えて、不定期に利用する生徒が数名いる。7 名の不登校の状況はさまざまで、学校に登校できていない生徒や学級に復帰途中の生徒、前までは学級の教室にいられたが、別室登校を選択した生徒もいる。また、心を安定させるため一時的に利用する生徒もいる。

具体的な取組

1. 校内体制の強化

別室の利用方法について、学年主任、生活指導主任、別室担当教員、管理職で話し合い、ルール等を明確にした。別室利用の考え方については、学年間で相違があり、学年ごとに利用方法が異なっていたため、課題を共有して、生徒が最大限利用しやすいように協議を行った。

2. 個々の不登校生徒への支援

不登校生徒のニーズを把握し、学習面の支援を計画的に推進したり、支援員との対話に重点をおき、コミュニケーションによる支援を行ったりしている。



3. 管理職と支援員との打合せ

管理職と支援員で打合せを行い、別室への登校状況や生徒の状態、支援等に関する現状把握と今後の方向性について確認を密に行ってきた。また、新規で利用する生徒や転入生徒などの情報共有も打合せの中で行い、円滑な支援につなげている。

4. 学級担任と支援員との協力体制

別室に登校した時と、教室に登校した時の状況を、一つの資料にまとめ、出席の確認を含め、学級担任と支援員が常に情報共有できるようにした。情報共有を密に行うことで、生徒の様子を踏まえて別室または教室に登校した際の声掛けや支援方法を工夫することができた。

成果

今まで全く登校できなかった生徒を含め、別室を利用する生徒は確実に増えており、学校への復帰に向けた支援ができた。「教室と家庭との間」と位置付け、自宅から外に出られないという状態から改善できた事例が複数あった。

課題

- ・教員間には、生徒の居場所の多様性に関する理解の差がある。
- ・別室登校の生徒の情報共有の時間を十分確保する。